

第23回夏季デフリンピック競技大会 バレーボール競技報告

日本女子バレーボールチーム
主将 宇賀耶 早紀



2017 Samsung

試合結果 予選リーグ

予選リーグは、全4試合にオールストレート勝ちで史上初の快挙で、グループリーグを首位通過しました。

7月19日VS イタリア 3－0(25-21,25-17,25-17)

7月20日VS カナダ 3－0(25-6,25-11,25-16)

7月21日VS トルコ 3－0(25-17,25-9,25-19)

7月22日VS ロシア 3－0(25-16,25-22,25-15)

予選リーグ7.21

ロシア

#6

アナスターシャ選手
(185cm)の高い
ブロックに苦しむ





予選リーグ

狩野監督の横に立ち
指示を伝える
岡田通訳

決勝リーグ

3大会連続で12年間世界チャンピオンに君臨したウクライナを準決勝で撃破。オリ・パラ・デフをまたぎ、日本のシニア団体競技で唯一の世界チャンピオンとなりました。

準々決勝 7月25日vs ブラジル 3-0(25-5,25-23,25-12)

準決勝 7月26日vs ウクライナ 3-0(25-18,25-23,25-20)

決 勝 7月28日vs イタリア 3-0(25-15,25-14,25-17)

2017 Samsun

準々決勝 7.25

ブラジルエース
#3 ナタリア選手
(188cm)

高い打点からの
強烈なスパイク



準決勝7.26

ウクライナエース
#12 イリーナ選手
(182cm)のスパイク



決勝 7.28
イタリアエース#1 アリス選手(180cm)
高いジャンプと巧みにコースを打ち分けるスパイク



準々決勝 7.25
VS ブラジル

日本のエース
#12 平岡選手
(163cm)
高いジャンプ力
強烈なスパイク





決勝戦 7.28
VS イタリア

日本のブロックが決
まる！

#1 宇賀耶選手

172cm

#10 長谷山選手

166cm



決勝戦 7.28

タイムアウト中

狩野監督の指示と岡
田通訳の手話を真剣
に見る選手たち



予選リーグ7.19 鈴木長官、薬師寺議員の激励



表彰式 手話で「君が代」を斉唱



表彰式 集合写真

日本チームの特徴

- ・全国各地から優秀選手を集め、選考兼強化合宿を行い12名を選抜
 - ・練習は月1回のペースで、土日祝日の連休に行く。
 - ・選手層は、年齢33～17歳。平均年齢23歳。20歳未満の選手が5名。
 - ・選手のバレー経歴は、Vリーグ、一般高中県選抜など様々。
 - ・選手のうち8名が企業でフルタイム勤務のOL、4名は学生。
(高校生、大学生)
 - ・日本チームの最高身長は178cm、平均身長は167cm
- * 各国の平均身長: ウクライナ180、アメリカ184、イタリア176cm

2017 Samsun

第23回夏季デフリンピック 日本代表女子バレーボールチーム 選手



名前:宇賀耶 早紀
Saki Ugaya
所属:富士ゼロックス大阪(株)
身長:172cm
ポジション:OP,MB,WS



名前:山崎 望
Nozomi Yamasaki
所属:(有)仙頭車輛
身長:178cm
ポジション:MB,OP,WS



名前:三浦 早苗
Sanae Miura
所属:ほけんの窓口グループ(株)
身長:170cm
ポジション:MB



名前:前島 奈美
Nami Maeshima
所属:鳥取県聴覚障害者協会
身長:162cm
ポジション:WS,OP



名前:高良 美樹
Miki Takara
所属:株沖電工
身長:155cm
ポジション:LB



名前:安積 梨絵
Rie Azumi
所属:兵庫県聴覚障害者協会
身長:166cm
ポジション:WS



名前:畠 奈々子
Nanako Hata
所属:田辺三菱製薬(株)
身長:163cm
ポジション:S



名前:村木 玲奈
Rena Muraki
所属:淑徳大学
身長:177cm
ポジション:MB



名前:尾塚 愛実
Aimi Ozuka
所属:京セラ(株)鹿児島川内工場
身長:166cm
ポジション:WS



名前:長谷山 優美
Yumi Haseyama
所属:平塚ろう学校
身長:165cm
ポジション:MB,OP



名前:中田 美緒
Mio Nakata
所属:平塚ろう学校
身長:164cm
ポジション:S



名前:平岡 早百合
Sayuri Hiraoka
所属:正智深谷高等学校
身長:163cm
ポジション:WS,OP

WS:ウイングスパイカー、MB:ミドルブロッカー、OP:オポジット、S:セッター、LB:リベロ

日本チームの工夫

・聞こえないハンデの克服は

★監督・コーチの指導を理解するため手話通訳を2名体制とした。

★レシーブ練習でゴム紐を使いスパイクコースを目で見える形で説明し、イメージを浮かびやすくしたてもらったこと。また、監督が自らプレーの見本を示した。

★選手同士でアイコンタクトやサインプレーを何度も繰り返した。



2017 Samsun

日本チームの課題

- ・チームの練習会場の確保が難しい。GWや連休を使い合宿を行ってきたが、3日間連続で利用できる施設が少ないこと。
- ・月に一度のペースで祝日に合宿を行うため、選手は身体的、精神的な負担が大きい。また、大会参加の為、有休を消化しきってしまう選手・スタッフがたくさんいること。
- ・選手・スタッフに過大な立替金や自己負担が生じている現状を憂いていること。

日本チームからの要望

- ・NTCと同様の宿泊、練習、トレーニング、動作分解解析等ができる、障がい者スポーツトップアスリート専用の施設をぜひ作ってください。
- ・アスリートとしてオリパラと同様の評価を受けたいです。オリパラと同様にメダルに対する報奨金を制度として作ってください。
- ・日本でデフスポーツの国際大会を開くためのサポートをお願いします。大会を通して、デフアスリートの活動や聴覚障がい理解のため、多くの方と交流を深めて行きたい。

謝意

国、地方行政、障がい者スポーツ関係団体、ろうあ連盟、会社、学校、家族、スポンサー、支えていただいた皆さんのお陰で私たちは金メダルを獲ることができました。本当にありがとうございました。

私たちのチームは、各々のハンデを補い合い、分け隔てなく協働し一つになって目標を達成できました。

デフリンピック・デフバレーボールを通して、私たちが得られた喜びや夢のような経験を日本の聴覚障がい者や社会全体に伝え、共生社会を作る一助になればと思います。そしてTokyo2020の成功に向けて私たちも精一杯協力したいです。

そして近い将来トルコで得た感動を日本で国民の皆さんと一緒に味わいたいです。日本で最高のデフリンピックがきっと開催できると信じています。